

## 平成30年度 教育指導の重点

八百津高等学校

(全日制)・定時制・通信制の課程)

- 1 地域社会や生徒の実態を認識し教職員の協力体制を基調として、自己評価や学校関係者評価を生かして、明るく感動のある教育の実現に努める。
  - (1) 生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすことができるよう、個性を生かす指導の充実を図り、きめ細かい指導を行う。
  - (2) 各分掌、各学年、各教科の目標を具体的に設定し、常に評価と改善を繰り返しつつ目標の達成にあたる。
  - (3) 学習指導・生徒指導・進路指導の校内研修を組織的、継続的に実施して、指導力の向上を図り、日常の実践活動に生かす。
  - (4) 中高連携事業をさらに活性化させ、全職員が6年間を見通した広い視野に立ち指導にあたる。
  - (5) 中学校・地域へ情報を定期的に発信し「開かれた学校」作りを進めるとともに、地域での体験活動を充実させ地域の理解と協力を得る。
  - (6) デュアルシステムを通じて地域と密接に協働し、地域社会人として活躍できる人材の育成をめざす。
- 2 基礎的・基本的な学習内容を身につけ、生徒が自ら進んで学習する意欲を高めるように個別指導の充実を図る。
  - (1) 授業を最も重視し、全職員が一致して、生徒の望ましい授業態度の確立を目指すとともに、生徒一人一人の進路実現に対応する学習をすすめる。
  - (2) 全ての教育活動を通して「ここまでやれたんだ」という成就感を体得させる場をつくり、意欲的な生活が送れるよう支援する。
  - (3) 「学び直し」「少人数教育」を軸に、基礎学力の定着と生きる力の育成に努める。
  - (4) 体育大会、文化祭、生徒会活動など生徒の自主的な活動を支援し活性化させる。
- 3 全職員の共通理解を基盤にし、全教育活動を通じて基本的人権を尊重し、差別と偏見のない民主的な態度の育成に努める。
  - (1) 個人の尊厳を重んじた望ましい人間関係の醸成と、ルールを守る態度の育成を図る。
  - (2) 教師と生徒のふれあいの場を努めて多く持ち、生徒理解と相互の信頼感の深化を目指す。また、保護者との連絡を密にし、保護者の理解と協力を得ることに努める。
  - (3) 主権者教育を通じて、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え判断し行動していく高い資質をもった有権者を育成していく。